

第 1 号議案 2021 年度事業報告

1. 概要

<この一年>

2021 年は、一昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響を受けながらの社会活動を強いられる一年でした。そんな中、一年遅れの東京オリンピック/パラリンピックが開催され、プロ野球が有観客で行われたり、観光地にも少しずつ観光客が戻って来ているなどの報道に、明るい未来を感じることができた一年でもありました。

しかしながらウイルスの脅威は今もなお続いています。そして、人と人との接触を避けるが故に、関係性が希薄化し誤解や行き違いを招いてしまい、人間関係に心痛める人も少なくありませんでした。子どもたちの間でさえも「コロナいじめ」「マスク警察」「ワクチン差別」という言葉が発せられているように、コロナによってウイルス感染とは違うところで大人や子どもの“心”がじわじわと攻撃されています。

子ども関連では、2023 年「子ども家庭庁」発足に向けての、関連法整備などが進められています。これは、我々の仲間たちが中央で各省庁等に対して積極的に行って来たロビイング活動の賜とも言えるでしょう。子ども支援政策がさらに整備されることが期待されます。

子ども&まちネットの 2021 年度事業活動も、様々な場面で新型コロナウイルスの影響を受けながらも、スタッフや参加者の皆様にご協力いただきながら、事業展開を行ってきました。ウイルスとの共存というこれまで経験したことのない、目に見えない相手とつきあいながら、この一年も模索が続きました。

<主たる事業(事業詳細は次章で)>

「STEP プロジェクト事業」は、東海ろうきん NPO 育成助成を受け開催しました。昨年に引き続き、保護者・支援者向け研修をオンラインで開催。研修参加者から希望を募って、個別相談、出張講座に繋げました。

自主事業および千種区社会福祉協議会の助成を受けて行った「ワンストップひろば事業」は、愛知県の緊急事態宣言が発出されたことを受け、8 月 27 日から 10 月 3 日まで臨時閉所としました。事業再開後も、感染対策を講じながら時間を短縮して開催し、社会情勢を見ながら徐々に時間を戻していきました。

<名古屋市青少年交流プラザ(ユースクエア)・青少年宿泊センター指定管理>

ユースクエア(本館)は、2021 年 4 月から 12 月末まで、天井工事のため臨時閉館になりました。したがって、これまで本館で行っていた事業の多くを他の施設や分館(宿泊センター)、オンライン等で開催しました。ユースクエア事業においても、市のガイドラインに沿って定員を減らすなどの感染対策を講じながら、事業活動を行いました。職員 2 名、非常勤職員 1 名が事業運営を担当しました。

<会員の状況>

正会員 個人:37 人、団体:2 団体 (昨年度個人:39 人、学生:5 人、団体:2 団体)

情報会員 個人: 5 人、団体:0 団体 (昨年度個人: 5 人、団体:0 団体)

賛助会員 個人: 7 人、団体:2 団体 (昨年度個人: 7 人、団体:1 団体)

合計 49 人と 4 団体 (昨年度 51 人と 3 団体)

2.事業の実施に関する事項

[1]「こどもにやさしいまちづくり」のための手法開発と普及、支援政策提言

事業名	名古屋市青少年交流プラザ(本館)、名古屋市青少年宿泊センター(分館)指定管理
主催	名古屋市子ども青少年局
事業目的	青少年交流プラザ(ユースクエア)における、主に若者の地域参画や自立に向けた体験活動などについて事業を企画し運営する。
実施期間	2021年4月～2022年3月
スタッフ	白川陽一・小島紫(常勤職員)、水野真由美・伊藤一美(理事/非常勤職員)
事業内容	<p>・ 公益財団法人名古屋市教育スポーツ協会、特定非営利活動法人 ICDS との三者のコンソーシアムで運営管理。</p> <p>以下は 2021 年度の事業のうち、子まちが担当したもの。</p> <p>※ユースクエアでは、若者の支援プログラムを三段階にとらえ、まず「人とつながり」、次に「地域社会につながり」、最後には「その地域社会に貢献できるような若者を育成する」という段階を踏んだ支援事業を企画している。</p> <p>一層目:【人につながる支援】</p> <p>知的創造活動の促進方法であるファシリテーションについて、様々な講師・アプローチからファシリテーターとしての在り方を学ぶことで、社会に生きる「私」としての自立心を育む「ビーイング・ファシリテーター入門講座」では、「対話」「からだから出会う」「共に成長する」の3つを各回完結型で開催する学びの講座を実施した。</p> <p>●開催日:5月8日(土)・15日(土)・23日(日)</p> <p>●参加人数:のべ22人</p> <p>自分のやりたいことがよくわからない、自分のやりたいことを自分で決めてやってもいいんだ、ということ意識していない若者たちを対象に、「マイプロ”(身の回りの気になることをテーマに、自ら設定した「プロジェクト」を、専用の記入シートを活用して、それを仲間と共有しながら、一人一人が実践していくプログラム)を実施したのが「ナゴヤココカラキャンプ」。主体性や自分の人生に対する当事者意識を育み、一歩踏み出す経験を得ることを目的として開催した。</p> <p>●開催日:10月24日(日)・31日(日)</p> <p>●参加人数:のべ19人</p> <p>青少年が、自分の興味のあることややってみたいことに気軽にチャレンジできる枠組み、「なんでも TRY at ユースクエア」。本年度は5年目になる「アニメートーク」のみ開催。コロナ</p>

禍で人に会うことが少なくなる中、定期的に仲間と話をする機会を持つことが支えになっている、というメンバーの声にこたえて継続的に開催。

●開催日:4月23日(木)・5月28日(金)・6月25日(金)・7月30日(金)・9月4日(土)・9月18日(土)・10月22日(金)・3月4日(金)

●参加人数:のべ49人

二層目:【地域・まちにつながる支援】

子どもに関わる職業やボランティアの人に、子どもの遊びとそれを介した関わり方について知ってもらうことを目的とする『プレイワーカー入門講座』を開催。1日目はプレイワーカー二人を講師に迎え、子どもの遊びの大切さや意義、社会の中での遊びの現状などについて教えてもらった後、体験型ワークショップ形式で学びを深めた。2日目は新海池プレーパークで実際に子どもたちと遊ぶ体験を行った。

●開催日:

第1回プレイワーカー入門講座…2月3日(土)

第2回プレーパーク実習(at. 新海池公園)…2月4日(日)

●参加人数:第1回 8人 ・ 第2回 32人(子ども含む)

ユースクエアに登録している青少年育成サポーター(ユースボランティア)の活動として、コロナ禍で開催が見送られてきた地域のイベント行事が徐々に復活してきたことがあり、大曽根商店街での活動を中心に、数件のボランティアマッチングを行った。

その他の青少年育成サポーター(ユースボランティア)の活動として、スキルアップのための講座、『音響・照明の操作を学ぼう』を北文化小劇場で開催。その後北文化小劇場で開催するイベントやプラザで開催するフェスの裏方として活躍する機会も紹介し、実際に参加してもらった。

●開催日:8月31日(火)

●参加人数:8名

音響照明講習会を受講した若者、前年度から活躍している若者たちが裏方として参加して、『ユースフェスティバル』を開催。高校・大学のダンス部やバンドが多数参加し、コロナ禍での希少な発表の機会ができたと言っていた。

●開催日(準備、リハーサル含む):

本番:1月29日(土) 準備・リハ:1月8日(土)・1月28日(金)・

●参加人数:のべ362名の参加 (7名の若者が運営側に参加)

昨年度スタートさせた、高校生が高校生参加者のために企画運営する音楽フェス、『Hopeful Fes』の第3弾を開催。新しいスタッフに加え、受験のために離れていた高校三年生の前年度スタッフもほぼ全員参加、12名の高校生スタッフで開催した。参加希望バンド同士やスタッフと出演者など、たくさんの繋がりが生まれ、そこから新しいバンドができたり、参加者がス

トップに入ったりと、次年度につながる面白い展開が見られた。

●開催日(準備、リハーサル含む):

本番:3月24日(木)

準備・リハ:2/18(金) 2/19(土)2/24(木)2/25(土) 3/4(金) 3/5(土) 3/16(水) 3/17(木)
3/21(金) 3/22(土) 3/23(水)

●参加人数:のべ304名の参加(14名の若者が運営側に参加)

プラザ企画委員会では、4~12月までは天井工事の関係で施設は休館であったことで、これまでになかった活動となった。たとえば、休館時の定例会議は変わらず施設(ユースクエア)内で行ったが、イベントは、夏は青少年宿泊センターで「まるはちグリーン夏まつり」、秋は中川コロナワールド本館(名古屋市中川区)で「ホラー脱出ゲーム『アマヤドリ』」の企画を実施した。民間施設と連携した企画実施はこれまでになく、特に創造的な活動であった。2022年1~3月は施設内で定例会を行った。年度末の「ユースクエアまるごとフェスティバル」は、昨年同様感染症対策を施しながら企画・運営を行うことができた。

【まるはちグリーン夏まつり】

●開催日:8月15日(日)

●参加人数:118名参加

【ホラー脱出ゲーム『アマヤドリ』】

●開催日:11月21日(日)

●参加人数:220名参加

【ユースクエアまるごとフェスティバル】

●開催日:3月6日(日)

●参加人数:101名参加

三層目:【地域・まちに働きかける支援】

「サステナまち計画2021」は、愛知学院大学・名古屋市北区役所等と協働し、広く「持続可能な地域」を見据え、主として名古屋市北区の地域課題について理解を深めながら、地元産官学の主体と若者(中学生・高校生・大学生)が協力・協働をし、解決に寄与する提案をしたり、行動を生み出す事業を、レゴ®ブロックを使ったワークショップを核に実施した。

※2021年度連携先

愛知学院大学社会連携センター、北区役所(地域力推進室・企画経理課)

北区民まちづくり推進協議会

愛知中小企業家同友会、北星会

●実施期間 2021年11月6日(土)

●参加者(中高大学生+その他の世代) 69名

ファシリテーター講座等で学んだことを自分の「身の回り」に活かすにはどうすればいいかと思っている若者を対象に、実践的なファシリテーションの技術を学んだり、人間関係づくりトレーニングを実施する「ドゥーイング・ファシリテーター実践講座」では、2日間の集中講座

	<p>をワークショップ形式で行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●開催日:3月19日(土)、20日(日) ●参加人数:のべ8名 <p>自主活動推進事業としては、「リアルで！アイブレ Camp」の開催サポートをした。これはワークショップやレクリエーションなどの場面で用いられる、お互いの緊張を和らげ、打ち解けるきっかけをつくる手法である「アイスブレイク」のアイデア・手法を持ち寄り、互いに学び合う合宿である。青少年宿泊センターで開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●開催日:8月4日(水)、5日(木) ●参加人数:のべ14名 <p>このほか、「ユースカンファレンス」を行った。若者が本館・分館の運営に参画していくことを意図している。両館の利用経験の有無にかかわらず、若者に集まってもらい「自分らしく居られるユースクエア」について探求する活動をした。</p> <p>(本館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●開催日:1月16日(日) 会場:ユースクエア ●参加人数:27名 <p>(分館) アンケート形式</p> <ul style="list-style-type: none"> ●開催日:2022年2月 <p>分館利用団体の中から、次の4団体それぞれに対しアンケート調査を行い、意見集約を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知キャンプカウンセラー協会 ・中京大フレンズ ・至学館大学サークル ・愛知教育大学混声合唱団
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、各種感染症対策を講じたり、参加者の定員を減らしたり、場合によってはオンライン開催をするなどで事業実施に対応し、変化に対応した事業運営をすることができた。 ・「ユースカンファレンス(本館)」では、「自分らしくいられるユースクエアってどんな場？」をテーマに探求活動をワークショップ形式で実施した。アートを基調とした活動で、得られた結果は質的分析を施し、2022年度から計画されているロビーワークに活かせるように可視化を図った。 ・「なんでも TRY at ユースクエア」から誕生した自主イベント「アニメーター」は5年目を迎えたが、メンバーたちの大切な居場所となっているのはもちろん、プラザに若者を迎え入れる枠組みの一つとして定着してきている。 ・「プレイワーカー入門講座」は、コロナの影響で日程や内容の大幅変更を余儀なくされ、さらにキャンセルも相次ぐなど、少ない参加者での開催となったが、少人数で行ったからこそ、参加者たちは深い学びを得ることができ、次年度にもつながる講座になった。 ・「ユースフェスティバル」「Hopeful Fes」は、自分たちでフェスを作るということを目標にした若者が主体的に活動する場として機能している。とてもユースセンターらしい取り組みで

	<p>あるので、今後も継続して行けるよう見守っていきたい。</p> <p>・「サステナまち計画 2021」は、昨年・一昨年の「企業が地域解決案を提案する」という形式から「地域に住まう一人ひとりが、自分の好きなまちを見出す」というアプローチに変更した。結果、課題解決発表提案会は無くなったが、今まで以上に広い年代・地域住民が注目するものとなり、多様な主体による世代を超えた地域コミュニティ醸成に一定の効果があつた。</p>
--	--

その他 各種委員会出席等

委員:2021 年度実績なし

[2]子ども・子育て・まちづくりに関する情報収集と発信事業

事業名	こまち通信、会員 ML(メーリングリスト)運営、サイト運営、Facebook 等 SNS 運営
自主事業	
事業目的	子まち会員内外への情報提供。会員相互の交流も兼ねる。
実施期間	サイト管理(外部委託)、Facebook 等 SNS 管理:通年 「こまち通信」号外:2021 年 7 月、38 号:11 月、39 号:2022 年 4 月
担当	こまち通信:デザイン・レイアウト外部委託 会員 ML:水野真由美(理事)、西村健(会員)、牛田真登(学生会員) 公式 Web サイト運営管理:外部委託 Facebook 等 SNS 管理:西村健(会員)、水野真由美(理事) ワンストップひろば専用 Instagram 水野真由美(理事)戸谷令子(会員)、ワンストップひろば専用公式 LINE 水野真由美(理事)、牛田真登(学生会員)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●こまち通信・ML とも事業の告知・報告をはじめ、会員内外に知らせたい内容などを掲載。ML は会員同士の情報交流を目指し、年間で 20 回の発信を行った。 ●こまち通信 <ul style="list-style-type: none"> 号外:総会報告 38 号:「STEP プロジェクト事業」報告、ユースクエア事業「夏まつり」報告等 39 号:ユースクエア事業報告、ひろば事業報告等 ●Facebook 等 SNS では、日常の事業案内や報告を発信
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・こまち通信の発行が、年間で3回の発行となってしまった。これまで不定期発行としてきたが、時期を設定した定期発行に戻すことも検討が必要。 ・会員 ML の活性化など、会員相互の交流の場づくりには、引き続き工夫が必要と考える。

[3]子ども・子育て・まちづくりに関わる人々のネットワークづくり、コーディネート事業

事業名	ワンストップひろば「小さい子どものセンスオブワンダー」
-----	-----------------------------

<p>・自主事業(通年)</p> <p>・助成元:10月～2月の計5回のみ千種区社会福祉協議会(ボランティア・NPO 応援助成事業(赤い羽根共同募金分配金))</p>	
事業目的	乳幼児期の子育ての不安の解消、仲間づくりなどを手伝い、子育て情報を伝える。また保護者同士の仲間作りをサポートする。
実施期間	<p>●自主事業</p> <p>期間:2021年5月1日～2020年4月30日</p> <p>・自由あそび、親子ヨガ</p> <p>●千種区社会福祉協議会助成事業</p> <p>期間:2021年10月1日～2021年2月28日</p> <p>・理学療法士による「コロナに負けない！子育て世代のこころと体の健康回復リフレッシュ事業」全5回開催</p>
講師、スタッフ	<p>講師:寺本久美子(ヨガ講師、当法人会員)、</p> <p>中村由布(理学療法士、BHB子どもからだアドバイザー)</p> <p>スタッフ:水野千鶴(会員)他ボランティア25名 / 水野真由美(理事)</p> <p>公式LINE配信:牛田真登(学生会員)</p>
事業内容	<p>・通年で全85回開催。新規登録親子15組を含むのべ323組の親子が参加した。</p> <p>・新型コロナウイルス感染拡大に伴う愛知県の緊急事態宣言が発出されたことを受け、8月27日10月3日まで臨時閉所とした。10月4日からは、開所時間を1時間短縮の10時30分から12時までとし、昼食(お弁当)を中止して再開した。社会情勢を見ながら、徐々に時間延長と昼食を再開し、引き続き感染対策を講じながらのひろば運営を行った。</p> <p>・千種区社会福祉協議会助成事業では、理学療法士による「コロナに負けない！子育て世代のこころと体の健康回復リフレッシュ事業」を開催。コロナ禍で、体にも心にもストレスを貯めがちな保護者に対し、特に今年度は講師からの提案で「脳を休める」を意識したストレッチやエクササイズも取り入れた。</p> <p>・ひろば専用の公式LINEを活用。参加予約受け付けや利用者及びボランティアスタッフからの連絡手段などのコミュニケーションツールとして定着してきている。</p> <p>・コロナ禍で連絡が途絶えていた大和学区主任児童委員さんとの連携を再開し、生後2か月～4カ月の赤ちゃん訪問時にひろばをご紹介いただき、特に転勤でこの地にはじめて引っ越して来られた0歳児を持つ利用者が増加傾向にある。</p> <p>・元利用者様より、不要になった絵本やおもちゃを多数ご寄付いただいたり、近隣の方から「イオン・イエローシート」のご協力をいただく機会が複数回あるなど、地域とのつながりも実感している。</p>
成果と課題	<p>・昨年度に引き続いて、コロナ禍にあっても妊産婦を含む乳幼児親子が、安心して通所できる場づくりを常に意識しながらのひろば運営。感染防止対策が引き続き求められる中、近隣の幼稚園・保育園でも感染拡大のため休園や登園自粛などが相次ぎ、登園自粛の園児らの兄弟姉妹を受け入れた(休園や学級閉鎖の児童・幼児はお断りした)。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・千種区社会福祉協議会助成事業以外の全ての日程が自主開催であるため、安定的な資金確保も引き続き課題である。 ・ボランティア募集サイト Activo を活用し、ひろばボランティアを通年で募集した。大学生・社会人・高校生らの希望者が集まり、約 25 名のボランティアが登録。仕事や授業の合間の時間にひろばボランティアとして活動に参加していただいた。これまでにない多世代がひろばに関わることで、ひろば事業そのものが活性化したことが実感できた。
--	--

事業名	子育てネットワーク千種 ミニ子育て広場
主催	子育てネットワークちくさ(事務局:千種区民生子ども課)
事業目的	区内の子育て支援関係機関等がネットワークを構築し子育て家庭への情報提供・相談の場、交流の場を作って子育てに喜びが感じられる地域社会への転換を目指す(規約より抜粋)
実施期間	※2021 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第 1 回から第 4 回、第 7 回が中止となり、第 5 回(11 月)、第 6 回(12 月)のみの開催となった。
担当	伊藤一美(理事)

その他の団体との連携、ネットワークづくり

名古屋市子ども・若者支援地域協議会

愛知県青少年育成県民会議

子育てひろば全国連絡協議会

NPO 法人子ども健康フォーラム

NPO おたがいさま会議

広げよう！子どもの権利条約キャンペーン

[4] [1]から[3]に関する研修・養成等企画運営事業

事業名	保護者・支援者向け集中研修 「変わっていく思春期の「からだ」と「こころ」を大好きになる 2021 ～障がいのある子ども・若者の 性と生の理解と支援～
助成元: 東海労働金庫「東海ろうきん NPO 育成助成事業」	
事業目的	「障がいのある子ども・若者が、地域で安心して暮らすために社会からの孤立を防止し、自己肯定感をあげる」ことを目的に、①自身のからだところを大切にする気持ちを育み②他者とのコミュニケーション力を身につけ、理解者の拡大とスキルアップを図る。
実施期間	2021 年 7 月～2022 年 2 月
担当	統括: 田中弘美(理事)、事務局: 水野真由美(理事)、IT 補助: 牛田真登(学生会員) 子ども&まちネットを中心に、障がい児者の支援に関わるメンバーで構成される STEP プロジェクト委員会*によって、事業立案から運営までを行った。

	<p>プロジェクト委員会*木全和己氏(日本福祉大学)、伊藤修毅氏(同)、伊藤加奈子氏(婦人科医)、鉄井史人氏(特別支援学級教諭)、鈴木由紀子氏(障がい者福祉事業所職員)、秋好眞澄氏(障がいのある子どもの父母のネットワーク愛知)、戸谷令子氏(同)、藤原美保氏(株式会社 Splendore 代表)、河村あゆみ氏(発達相談員)。</p>
事業内容	<p>2021年9月に『クリエイツかもがわより『障がいのある子ども・若者の性と生「からだ」と「こころ」を大好きになろう』』を出版。本書をテキストとして活用し、保護者・支援者向け研修をオンラインで開催した。</p> <p>研修参加者の中から希望を募り、個別相談と出張講座(事例検討会)をいずれもオンラインで開催した。</p> <p>◆保護者・支援者向け基礎研修(全てオンライン)</p> <p><基礎研修①>「障害のある子ども・若者のセクシュアリティ教育」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性教育の現状と課題 ・教育現場からの実践報告 <p>開催日時:2021年9月26日(日)10:00~12:30</p> <p>会場:オンライン形式</p> <p>講師:伊藤修毅(日本福祉大学子ども発達学部准教授)</p> <p>事例紹介:鉄井史人(名古屋市小学校特別支援学級担任)</p> <p>司会進行:田中弘美(当法人副理事長)</p> <p>申込者数:89名</p> <p>参加者数:85名 出席率 95.5%</p> <p>参加者層:障がい児者支援事業所職員、教育関係者、保健センター職員、保護者等</p> <p><基礎研修②>「思春期の心と体の変化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療現場から見る「性」の現状と課題 <p>開催日時:2021年10月10日(日)10:00~12:00</p> <p>会場:オンライン形式</p> <p>講師:伊藤加奈子(ココカラウイメンズクリニック院長・婦人科医)</p> <p>司会進行:田中弘美(当法人副理事長)</p> <p>申込者数:90名</p> <p>参加者数:82名 出席率 91.1%</p> <p>参加者層:障がい児者支援事業所職員、教育関係者、保健センター職員、保護者等</p> <p><基礎研修③>「社会福祉の現場の性の支援の取り組みと課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人たちに合わせた支援の手法 ・事業所からの実践報告 <p>開催日時:2021年10月31日(日)10:00~12:30</p> <p>会場:オンライン形式</p> <p>講師:木全和己(日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科 教授)</p>

事例紹介:鈴木由紀子(障がい者福祉事業所職員)

司会進行:田中弘美(当法人副理事長)

申込者数:90名

参加者数:72名 出席率 80.0%

参加者層:障がい児者支援事業所職員、教育関係者、保健センター職員、保護者等

◆個別相談(オンライン)

研修受講者を対象に、3日間計8コマ(1コマ50分間)の相談枠を設けたが、相談希望は、

3名(事業所2,個人1)にとどまった。

[相談実績]

11月13日(土)

①13:00~13:50…福祉型入所施設(三重県)

講師:伊藤修毅先生

ファシリテータ:田中弘美

11月23日(火・祝)

①10:00~10:50…個人

②11:00~11:50…児童相談所職員(名古屋)

講師:木全和巳先生

ファシリテータ:田中弘美

各回、相談者の現状をうかがい、質問に応える形で、相談に応じた。

◆出張講座(オンライン)

①T事業所(愛知県東海市) 放デイ・児童発達・生活介護

2月1日(火)13:00~15:00

講師:木全和巳先生

コーディネータ:田中弘美

参加職員…所属看護師、保育士、児童指導員、理学療法士など7名

・事前ヒアリングシートに基づき、事業所内で抱えている問題と、職員が個々に課題と感じている事例を聞き取り、講師からのアドバイスをいただいた。

②M事業所(三重県津市) 福祉型入所施設

2月4日(金)9:30~12:00

講師:木全和巳先生

コーディネータ:田中弘美

参加職員…寮長、看護師、児童指導員、保育士、指導員、公認会計士・精神保健福祉士など10名

・事前ヒアリングシートに基づき、事業所内で抱えている問題や過去の事例を聞き取り、

	<p>今後の取り組みなどについて、講師からのアドバイスをいただいた。</p> <p>◆企画会議(プロジェクト委員会)</p> <p>研修ほか、本事業遂行のための企画会議を、オンラインで開催した。全体会を2回、分會を3回の計5回の企画会議を開催した。全体会を毎回行う予定を変更し、担当する委員中心の分會を行うことで、より細かな内容の検討を丁寧に行うことができた。</p> <p>○第1回プロジェクト委員会(全体会) オンライン 6月3日(木)20:00~21:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度事業概要について ・研修日程決め、研修内容検討 ・テキスト(書籍出版)について <p>○第2回プロジェクト委員会 オンライン 8月5日(木)17:00~18:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修テキスト(書籍)について ・研修の進め方について <p>○第3回プロジェクト委員会 オンライン 10月5日(火)19:00~20:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修③の進め方について、事例紹介内容検討 <p>○第4回プロジェクト委員会 オンライン 11月23日(火・祝)12:00~13:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出張講座内容検討、出張講座進行確認ほか <p>○第5回プロジェクト委員会(全体会) オンライン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今期事業振り返り、次年度に向けての課題 ・書籍販売についてほか
<p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度もオンラインにて開催。オンラインにすることで全国各地から定員を上回る参加申込みがあった。 ・対面と違って、個々の事例に沿った学びの深め合いや話し合いなどが難しく、参加者満足度が下がることを懸念したが、事後アンケートの結果では、内容について「大変良かった」「良かった」を合わせて94%から「良かった」との回答が得られた。理解度に関しては、「思春期における”体とこころ“についての理解が深まったか？」の問いに、91%が「とても深まった」「深まった」と回答した。 ・出張講座は、当初対面(出張)での開催を計画していたが、愛知県にも蔓延防止等重点措置が発出されたため、オンライン開催に変更した。実際に出張して、対象事業所の実態(視察)が叶わず、事前のヒアリングシートで対応することとなった。 ・改めてオンラインでの研修のあり方や、グループディスカッションやワークショップ(ブレイクアウトルームの活用)や、実践研修の開催などの点で課題が残った。

事業名	その他 STEP 事業
自主事業	
事業目的	「障がいのある子ども・若者が、地域で安心して暮らすために社会からの孤立を防止し、自己肯定感をあげる」ことを目的に、障がいのある子ども・若者の思春期支援の課題を、支援者が理解し、スキルアップを図り、支援者同士が繋がり、一人ひとりに寄り添った支援ができるようになることを目指す。
実施期間	通年
担当	田中弘美(理事)、水野真由美(理事)及び STEP プロジェクト委員
事業内容	<p>◆書籍の出版…『障がいのある子ども・若者の性と生「からだ」と「こころ」を大好きになろう』 クリエイツかもがわより 2021 年 9 月 1 日発行。DVD アニメーション「命のはじまり～出産まで」(約 7 分間)付き、2,420 円(税込)</p> <p>2018 年 STEP プロジェクトにて作成したテキスト『Study book』を最新情報に改編し、さらにバージョンアップして出版。STEP プロジェクト講師の木全和巳氏、伊藤加奈子氏、伊藤修毅氏、田中弘美(理事)、STEP プロジェクト委員による編著。</p> <p>◆講師派遣・コーディネート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度 阿久比町・東浦町障害福祉人材育成事業 (阿久比町障がい者自立支援協議会/東浦町障がい者自立支援協議会主催) <p>2021 年</p> <ul style="list-style-type: none"> 5 月 26 日(水)講師:伊藤加奈子氏 6 月 21 日(月)講師:伊藤修毅氏 6 月 28 日(月)講師:木全和巳氏 <p>阿久比町・東浦町の福祉事業所職員向けの研修をコーディネートした。(研修はいずれもオンライン)主催者との事前打合せや、参加申込者らからの事前のアンケートを行い、より主催側のニーズに応えられるような研修が開催できるよう、講師との打合せを丁寧に行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東浦町事例検討会 (ひがしうら相談支援センター主催) <p>2022 年 1 月 12 日(水)講師:木全和巳氏</p> <p>東浦町内福祉事業所から事前に集められた個別具体的な事例を、講師参加者が共有し、対応を検討する事例検討会を、コーディネートした。</p>
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・書籍の出版は、「東海ろうきん NPO 育成助成事業」の研修テキストに用いたため、一定数の販売はできた。コロナ禍のため、出版記念イベント等が開催できず、今後の活用方法や販売促進に課題が残る。 ・講師派遣は、今年度及び過去の集合型研修・オンライン研修受講者からの要望で実現した。今後、同様のニーズが増えることが予想され、横展開も可能と思われる。

[その他] コロナ関連

- ・中小企業等新型コロナウイルスワクチン接種促進給付金受給
- ・(会員有志からのご寄付)手指消毒用ハンドジェル2ケース、除菌シート8パック
- ・NPO おたがいさま会議*(毎週または隔週火曜日 Zoom 開催)出席
 - *事務局:レスキューストックヤード/日本福祉協議機構

3. 会議の開催に関する事項

(1)総会

1. 開催日および場所

日時:2021年(令和3年)6月27日(日)13時30分～15時

場所:子ども&まちネットひろばスペース及びオンライン会議室システム zoom

2. 議題

第1号議案:2020年度事業報告の承認について

第2号議案:2020年度事業決算の承認について

第3号議案:2021年度事業計画の議決について

第4号議案:2021年度予算計画の議決について

3. 報告事項

1. 役員の退任について

(2)理事会

第1回 理事会

1. 開催日および場所

日時:2021年6月19日(土)20時～21時30分

場所:子ども&まちネットひろばスペース及びオンライン会議システム zoom

2. 議題

第1号議案:総会資料の確認

第2回 理事会

1. 開催日および場所

日時:2021年6月27日(日)12時～13時30分

場所:子ども&まちネットひろばスペース及びオンライン会議システム zoom

2. 議題

第1号議案:総会資料の確認

第2号議案:役員の退任について